

幼保小の架け橋プログラム

2022（令和4）年度から始まった「幼保小の架け橋プログラム」。全国19の自治体がモデルとなって進めています。架け橋プログラムをもう一度考えてみましょう。



1. 「幼保小の架け橋プログラム」って何ですか？

① 目指すものは？

「幼保小の架け橋プログラム」というのは、幼児教育と小学校教育を円滑に接続するために、架け橋期の教育の充実を推進する全国的な取り組みのことです。文部科学省が2022年度から3か年程度を念頭に、モデル地域を中心に進めています。子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人ひとりの多様性に配慮したうえで、全ての子どもの学びや生活の基盤を育むことを目指しています。

② これまでの違いは？

これまでの保幼小連携は、年長の10月頃から1年生の1学期（夏休み前）までを「接続期」として、年長（5歳）と1年生（6歳）のそれぞれの担任と管理職が中心に進めてくることが多くありました。しかし、それぞれのカリキュラムの考え方や指導方法には様々な違いがあります。互いの特性を理解し、かつそれぞれの教育の充実を図りながら円滑な接続を行うには、数カ月程度では不十分であったため、じっくり余裕をもって取り組むことができるように2年間の設定がなされました。そして、子どもの成長を第一に考え、発達の段階を踏まえた教育の一貫性・連続性のもとに、子どもに関わるすべての関係者が立場を越えて連携することが求められています。

③ すべての地域で行うの？

各地で取組が行われているものの、形式的な交流活動にとどまり、カリキュラムの改善や指導方法の見直しにつながらないなど、様々な課題が生じています。不登校や自殺の数をこれ以上増やさないためにも学校生活が楽しくなければいけません。居場所づくりのために、モデル地域以外でも、架け橋プログラムの趣旨を一層実現することが求められています。

2. 「幼保小の架け橋プログラム」を進めるために 3つの大切にしたいこと

① スタートカリキュラムの姿を理解する

「小学校においては、架け橋期のカリキュラムの実効性を高めるにも、幼児教育と小学校教育の円滑な接続において重要な役割を担うスタートカリキュラムの位置付けを再確認し、架け橋期のカリキュラムを踏まえた教育課程の編成・実施・改善を進める中で、スタートカリキュラムの充実を図ることが必要である」と文部科学省の審議にまとめられています。では、再確認してみましょう。

第1ステージ

2008年の「学習指導要領解説 生活編」で、スタートカリキュラムという言葉は登場します。17年前のことです。「小1プロブレム」と呼ばれる集団行動がとれない等の状態が続く子どもたちが見られ、それを解決するための方策に取り組んだ時期が「第1ステージ」と位置付けられています。

第2ステージ

2015年に「スタートカリキュラム スタートブック」が出されると、「1年生はゼロからのスタートではない！」が合言葉となり、子どもたちは幼児期の遊びや生活を通してたっぷり学んできているという考え方が叫ばれ始め、より子どもの生活の流れに沿った取り組みになっていきました。

第3ステージ

2017年に学習指導要領改訂により「第1章総則」にスタートカリキュラムが位置づけられました。子どもたちが自己を主体的に発揮しながら学びに向かうことが可能となるよう、それまでの育ちや学びを引き出すという、発想の転換が求められるようになりました。

②子どもを信じ、できることを奪わない

子どもたちは、保育園・幼稚園・こども園では、年長さんとして園のリーダーであり、年下の子どもから頼られる存在です。それが入学した4月から一変します。6学年の一番下で、何もよく分からない、できない、守ってあげなければいけない存在だというふうに。確かに、学校の施設や設備などの環境面では分からないことが多いでしょう。でもそれは、大人でも転勤してきた初めての場所では同じことです。

子どもたちは、5歳児で培ってきた自尊心を少なからず傷つけられ、お飾りのような気持ちになってしまうこともあるのではないのでしょうか。

子どもたちは、新しい環境にドキドキしながらもワクワク感も抱いています。新しいことに挑戦したいという思いももっています。子どもができることを教師や上級生が奪わず、思考錯誤しながらも友だちと相談し協力するプロセスと達成感を大切にしたいと思います。そのためにも教師は子どもの姿をよく見て、子どもに活動を任せるタイミングをつかむ必要があります。そして、達成感を得た子どもたちが次の活動に迎える意欲を育むことも大切になってきます。

③自分で選べるように

子どもが、主体的に考え、行動するためには、いろいろな選択肢が必要です。

3学期に入学生の保護者対象の学校説明会の裏で、1年生が年長児と交流する学校が多いのではないのでしょうか。そのとき、1年生は張り切って事前準備から5歳児のために〇〇しようと取り組みます。1年生は、年長児とやってみたい活動をあれやこれやと考えます。ただ、当日、年長児は決められた遊びや活動を行うだけで、お客さんのようになってしまうことが多くあります。これでは、1年生にとっては学びある活動でも、年長児にとっては主体的な活動とは言えません。せめて、時間の半分は活動・遊びを年長児が選択できるようにすることで、互いがWin-Winの関係を築けます。運動場での外遊び・図書館での絵本・体育館での屋内遊びなどが考えられます。

また、1年生は自分たちが年長児だった時に学校案内をしてもらった経験があると、同じように案内したいと言い出すかもしれません。園の先生も、4月になって子どもたちが困らないようにという思いから、学校施設の案内を望まれるかもしれません。しかし、新1年生でのわくわくした気持ちで学校探検をするためにも「学校案内」から年長児が選べる活動に変えていけると新入生のわくわく感を奪うことがなくなります。



3. 形式的にならない取り組みを

園と小学校の先生の合同研修会で、子どもの様子を見て、生き生きしていたとか活発だったとか表面的な話で終わることがあります。学習・活動のねらいや「10の姿」の視点で語ることはもとより、自分の心が動いたこと、園と小学校で似ているなど思ったところ、疑問に思ったことなど、ちょっとした気づきを話すことが、本音で語り合えることにつながります。学ぶ意欲と学ぶ力をもった有能な学び手である子ども本来の姿を引き出すためには、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて、本音で語り合い、子どものことを考えて、少しずつ前に進んでいくことが大切です。子どもの学びだけでなく、大人もこうしたプロセスを大事にし、学び続ける教職員・大人でありたいものです。

おすすめの1冊



『幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？』

—幼児教育と小学校教育の円滑な接続のための参考資料—

文部科学省 著

本書は幼児教育と小学校教育の接続について、幼児期の遊びを通した学びと小学校の各教科等の学習のつながりを見える化し、幼保小の相互理解を促進するための参考資料です。

第1章「幼児教育と小学校教育」においては、それぞれの教育の特徴等を解説し、第2章「各教科等における学びのつながり」においては、幼児期の遊びを通した学びと各教科等の学習（小学校1年生で学習する全ての各教科等）とのつながり等を解説しています。

子どもたちが幼児期に遊びを通してどのような学びを重ねているのか、小学校では幼児期の遊びを通した学びを踏まえてどのように教育活動を展開しているのかをビジュアルで紹介しています。

おすすめの作者 2

たまには仕事以外の本にどっぷりつかるとのリフレッシュの一つです。

今回は、誰もが知っているベストセラー作家、東野圭吾さんを取り上げます。東野さんは、「放課後」で江戸川乱歩賞を受賞し、作家デビューされました。その後、直木賞、日本推理作家協会賞、本格ミステリー大賞、柴田錬三郎賞、吉川英治賞、菊池寛賞など多数受賞されています。ドラマ・映画化される作品も多く、ご存じの方も多いことでしょう。

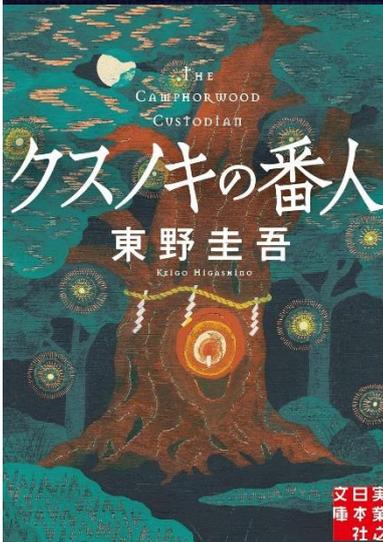
東野作品史上もっとも泣けると言われる作品、初めてアニメーションになる作品、その続編の3つを紹介します。



『ナミヤ雑貨店の奇蹟』

東野 圭吾 著 出版社 角川文庫

世界累計 1300 万部突破の東野作品史上最も泣ける感動作！
2017 年に映画化されました。観られた方もおられるでしょう。
あらゆる悩み相談に乗る不思議な雑貨店。そこに集う、人生最大の岐路に立った人たち。過去と現在を超えて温かな手紙交換がはじまる……張り巡らされた伏線が奇跡のように繋がり合う心ふるわす物語。
この作品の最大の魅力は、登場人物たちが困難な状況に直面しながらも、ナミヤ雑貨店の相談を通じて新たな道を見つけていく姿にあります。物語は連作短編の形式をとっており、各エピソードが一見独立しているようでありながら、最終的には一つの大きな物語として収束します。東野ワールド全開です。



『クスノキの番人』

東野 圭吾 著 出版社 実業之日本社文庫

2020 年発表の累計 100 万部を超える人気作。アニメーション映画化決定！ 来年全国ロードショー。
“その木に祈れば願いが叶う”と伝えられる謎めいたクスノキと、その番人となった青年を描いた物語です。
恩人の命令は、思いがけないものでした。不当な理由で職場を解雇され、腹いせに罪を犯して逮捕された玲斗。そこへ弁護士が現れ、依頼人に従うなら釈放すると提案がありました。心当たりはないが話に乗れ、依頼人の待つ場所へ向かうと伯母だという女性が待っていて、玲斗に命令します。
「あなたにしてもらいたいこと、それはクスノキの番人です」と…。そのクスノキには不思議な言い伝えがありました。



『クスノキの女神』

東野 圭吾 著 出版社 実業之日本社文庫

神社に詩集を置かせてくれと頼んできた女子高生の佑紀奈には、玲斗だけが知る重大な秘密がありました。
一方、認知症カフェで玲斗が出会った記憶障害のある少年・元哉は佑紀奈の詩集を見てインスピレーションを感じます。
玲斗が二人を出会わせたところ、瞬く間に意気投合し、思いがけないプランが立ち上がります。
不思議な力を持つクスノキと、その番人の元を訪れる人々が織りなす物語です。
待望のシリーズ第二弾。